参加・参画から協働へ

市民一人ひとりが主役のまちづくり

“市民自治つる21”を目指して

健康で生きがいのある市民の暮らしの実現に向けて

二十一世紀を迎えた今日、わが国は、少子・高齢社会や、グローバル化、ＩＴ革命、環境問題、長引く経済不況などにより、人類史上的ともいえる変革の時代を迎えております。このような閉塞感が充満する不透明な状況の中、本市では、時代を見据え、舵取りを誤らないよう「個性豊かな自立社会」、「持続可能な定常社会」、「互恵・共生社会」という三つの目指すべき地域社会像を掲げて、市政運営の基軸に据えております。

〇個性豊な自立社会

自己決定、自己責任を基本とした地方分権時代を迎え、限られた財源を最大限に生かし、いかに個性豊かな住みよいまちづくりを進めていくのか、知恵比べの時代となっています。そのため、これまでのように、一つの価値観を求めて他の地域と競い合う「ナンバーワン」指向型から、地域の持つ価値を見いだし、その価値を発展させながら他の地域との差別化を進める「オンリーワン」指向型のまちづくりに転換し、厳しい経済状況の中にあっても、誰にでもチャンスが平等に与えられる自立可能な住むことに誇りのもてる地域社会を目指します。

平成十六年の年頭にあたり、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

本市は、今年市制五十周年という時の刻みの節目を迎えます。この記念すべき年を皆様とともに祝福し、先人たちのたゆまぬ努力と輝かしい功績に対して感謝と敬意を表するとともに、さらなる飛躍と発展の年となりますよう心から願うものであります。

○持続可能な定常社会

わが国は、世界的にも例を見ない少子・高齢社会の到来により、「ゼロ成長」社会に突入したといえます。また、化石燃料の枯渇や地球温暖化問題など、資源や自然環境の有限性が世界的に叫ばれるようになり、経済規模をこれ以上拡大させない取り組みが大きな課題となっています。

「定常社会」は、「少子・高齢社会」と「環境にやさしい社会」の二つを結びつけるコンセプトであり、そのため、人と環境が持続的に共生していく「定常社会」を目指します。

○互恵・共生社会

経済成長が望めない社会の到来により、公共サービスのあり方もおのずと見直す必要に迫られており、家族や地域、また、地域内での人と人のネットワークの役割と機能が、十分発揮できる社会システムの構築が不可欠となります。そのため、市民一人ひとりが自己実現を果たし、個性と能力を生かして、共に認め合い、支え合い、生きがいと働きがいを持って、共生していく「互恵・共生社会」の具現化を目指します。

地方分権時代を迎え、限られた財源を最大限に生かし、政策課題に積極的に対応するため、重点施策を策定し、市政運営に当たっておりますが、平成十六年度は、次の八項目を定め、その推進に努めることとしております。

◎市制五十周年事業の推進
◎エンゼルプランの推進
◎教育首都の推進
◎ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりの推進
◎地域経済活性化の推進
◎持続可能な循環型システムの推進
◎協働のまちづくりの推進
◎地方分権時代に対応した行財政経営の推進